第45回 新報児童オリンピック 2025

ハンド・沢岻（男子）当山（女子）V

柔道・城間（男子50㌔超）大城（女子45㌔超）頂点

小学生総合スポーツの祭典「第45回新報児童オリンピック大会」（主催・琉球新報社、県ハンドボール協会、県バレーボール協会、県柔道連盟、共催・県スポーツ協会、特別協賛・NTT西日本沖縄支店、ほっともっと沖縄地区本部、協賛・スポーツデポ）は3日までに、県内各地でバレーボールと柔道、ハンドボールが行われた。

3日に那覇市の県立武道館アリーナであったハンドボールで、Aパート男子は沢岻クラブが19大会ぶり4度目の優勝、同女子は当山クラブが2年連続5度目の栄冠を手にした。

2日に県立武道館などで行われた柔道は、6年男子50㌔超級で城間陽（志道館）、同女子45㌔超級で大城ちよ（志道館）が頂点に立った。

U—10バレーボール大会は7月26、27の両日、豊見城市民体育館で実施された。会場が停電するトラブルもあったため、今回は男子と女子、混合で各ベスト4を選出して大会を終えた。

ベスト4は男子が結の橋クラブと西原東クラブ、田場、兼原ボーイズ。女子は下地クラブと大山クラブ、久松、結の橋クラブ。混合は美東クラブと中川クラブ、鏡原・砂川、小禄南。

（記録は後日掲載）

体格差の不利打ち破る

男子ハンド沢岻　技術と連係 得点重ねる

男子Aパート決勝　沢岻—琉球コラソンU—12　最多7得点で優勝に貢献した沢岻クラブの照屋喜充＝3日、那覇市奥武山町の県立武道館アリーナ

平均身長で、自分たちよりも約11㌢高い琉球コラソンU—12との決勝戦。沢岻は体格差の不利を、守備では素早い動きで琉球をけん制し、攻撃では連係したパス回しから各ポジションで点を重ねるなど、手数や引き出しの多さで打ち破り、優勝をつかみ取った。

上背のあるコラソンに押し込まれ、前半は追う展開が続いた。攻撃でセンターの石川蓮琉を起点に「今日は百点の出来映え」と振り返る名嘉栄翔らがカットインで取り返し、延長へ突入した。

主導権の奪い合いになった延長では、最多7得点の照屋喜充が相手の速攻を戻ってつぶすなど泥臭いプレーで貢献。最終盤では好セーブを連発したGK前城圭希の活躍に、金城飛結や大城芯ら両サイドが得点で応え、振り切った。

技術と連係でつかんだ勝利に主将の大嶺輝は「めっちゃうれしい。九州大会を制覇できる力も付けていきたい」と声を弾ませた。（嘉陽拓也）

19大会ぶり4度目の栄冠を手にした沢岻クラブ

男・女・混合 4強決定で終了 バレー

男子ベスト4に入った結の橋クラブ、西原東男子クラブ、田場クラブ、兼原ボーイズ＝7月27日、豊見城市民体育館

女子ベスト4に入った下地クラブと大山クラブ、久松、結の橋クラブ＝7月27日、豊見城市民体育館

混合ベスト4に入った美東クラブと中川クラブ、鏡原・砂川、小禄南＝7月27日、豊見城市民体育館

2戦連続の延長制す

女子ハンド当山　GK儀間が好セーブ

女子Aパート決勝　当山クラブ—天久クラブ　7㍍スローコンテストの9球目、相手シュートを止める当山クラブのGK儀間月乃＝3日、那覇市奥武山町の県立武道館アリーナ

準決勝に続き、決勝戦も7㍍スローコンテストとなった当山。9人目、先行は初優勝をつかみたい天久。「相手は試合中に逆方向を狙うことが多かったから」とコースを読んだGK儀間月乃が両手でボールをはじき、ガッツポーズ。後攻の仲原美唯奈が冷静に決めると、皆で抱き合い喜びを爆発させた。

決勝の当山は高めの守備で天久に対応。當眞梅花のパス回しから外間日菜や仲原らフローターに限らず、両サイドまで展開し、得点を重ねた。延長では天久にリードを許したものの全員で粘り強く食らいつき、勝機を渡さなかった。

2試合連続の延長戦を勝ち抜いたことに、主将の伊波葵咲は「優勝できてめっちゃうれしい」と満面の笑み。2連覇を達成したことに當眞は「ピンチでも皆が心を強く持てたから」と団結力の強さに胸を張った。（嘉陽拓也）

2年連続5度目の優勝となった当山クラブ

柔道各級で1位になった選手ら＝2日、那覇市奥武山の県立武道館

ⓒ琉球新報　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します